

桜 甫 会 会 報

編集発行:山口県立大学同窓会桜園会
 《事務局》〒753-8502 山口市桜島3-2-1
 TEL&FAX083(925)7485 振替口座01570-2-25095
 メールアドレス ouhokai@yamaguchi-pu.ac.jp
 印刷: (株)マルニ

Vol.61

平成25年3月1日発行



桜園会賞授賞式



奨励賞



奨励賞



功労賞

「おいでませ! 山口大会でのハンドトリートメント」災害ボランティア実行委員会ぶらぼうや勇氣

「水無月祭演舞」よさこいサークル奄美連合萩組

留学生への新生活応援パックの贈呈

皆様方のご協力によりまして七十周年の記念行事も一段落し、現在七十五周年に向けて記念誌発行の準備にとりかかっているところです。

歴史を再認識することは今を確認し未来を展望する基盤となるものです。しっかりとした記念誌を発行し続けることによって新しい歴史を積み重ねてまいりましょう。是非皆様も様々な思いをお寄せ下さいませ。特に歴史の証言となるべき「物」が既に散逸してしまっています。

もしお手許に何か思い出を誘う物がございましたら、ご一報なり、直接お届けいただけます。一緒にステキな記念誌を作りましょう。

キャンパス内で在学生の方々に出会いますと、その若々しい姿に、エネルギーを貢えるような気がします。折にふれ、大学にお立ち寄り下さいますようになります。大歓迎です、とのことです。

皆様も様々な思いをお寄せ下さいませ。特に歴史の証言となるべき「物」が既に散逸してしまっています。

もしお手許に何か思い出を誘う物がございましたら、ご一報なり、直接お届けいただけます。一緒にステキな記念誌を作りましょう。

キャンパス内で在学生の方々に出会いますと、その若々しい姿に、エネルギーを貢えるような気がします。折にふれ、大学にお立ち寄り下さりますようになります。大歓迎です、とのことです。

皆様方のご協力によりまして七十周年の記念行事も一段落し、現在七十五周年に向けて記念誌発行の準備にとりかかっているところです。

歴史を再認識することは今を確認し未来を展望する基盤となるものです。しっかりとした記念誌を発行し続けることによって新しい歴史を積み重ねてまいりましょう。是非皆様も様々な思いをお寄せ下さいませ。特に歴史の証言となるべき「物」が既に散逸してしまっています。

もしお手許に何か思い出を誘う物がございましたら、ご一報なり、直接お届けいただけます。一緒にステキな記念誌を作りましょう。

キャンパス内で在学生の方々に出会いますと、その若々しい姿に、エネルギーを貢えるような気がします。折にふれ、大学にお立ち寄り下さりますようになります。大歓迎です、とのことです。

新しい歴史への歩みを

会長 福田百合子



後方さくらの森一帯への、キャンバス移転の話も、だんだん煮詰まつてくる状況にあります折柄、旧校舎・校庭への想い入れも、つい深まるようです。

新校庭に想定されている山裾には「りんどう」の花野が毎年広がります。つわぶきの花の黄も見事で、万葉集山上憶良詠の秋の七草に付け加えたいほどです。曼珠沙華の朱の縁どりも。

勿論、春の七草にも、こと欠きません。宮野桜島は、そんな風に素朴で、優雅で、しかも力強い土地柄なのです。

桜の花を咲かせるように、大学のさらなる発展を願つて及ばずながら、同窓生一同、「丸となつて力を出し合おうではありますんか。大学との車の両輪として、その一翼をにないましよう。ひとりでは小さな花びらながら、そのつとめを果しましよう。きっと立派な桜の森が実現することをお互いに信じつゝ、

（昭和23年国語卒）

存在感ある人材養成に向けて —桜園会会報に寄せて—

山口県立大学学長・理事長 江里 健輔



桜園会の皆様、お元気でしょ

か？

昨年は各地区で開催されました
桜園会支部総会に出席させて頂きました。

副理事長、副学長と私の三人のいずれかが必ず出席するよう努めているところですが、出席の度に、桜の森夢基金を立ち上げましたところ、会員の方々は勿論ですが、各方面の方々からも多大なご支援を頂き、基金活動も順調に運んでいます。この紙面をお借りして、心からお礼申し上げます。

さて、本学のキャンパス移転も現実化してまいりましたが、その中には、日本の大学は改革という大きな波に真正面から向き合っていることが求められています。今の大

ていい、学生が大学等で学んだことが、地域に出てから役立っていない、大学が組織として地域との連携に取り組んでいないなどの社会批判に応えるよう、大学が自主・自律で変革しなければなりません。

しばしば、本学の使命は、と問

われることがありますが、当然のことですが、「地域貢献型

大学」として、名実ともに存在感ある大学であることです。具体的には、昭和の時代、保育領域等では本学出身者がきら星のごとく輝き活躍されていたということを耳にしますように、本学卒業生がいろいろな地域でなくてはならぬ存在感ある人材に育つて欲しいといふことです。学部編成が行われ、日が進むので、このようになるにはまだまだ時を要しますが、国際文化、社会福祉、看護・栄養の各領域で個性ある、先見性ある人材を輩出することになります。このためには、各地で活躍していく

152件中42件が採択、公立大学は本学を含むわずか4校。対象学部は国際文化学部で、グローバル教育のトップランナーとして進み、平成27年度以降は全学的に展開していく計画です。

本学では、地域とグローバル社会との架け橋になる人材を育成します。これを「インターラーカル人材」と言い、国境を超えて、課題解決に向かう姿勢をもち、地域の強みを世界に「売り込める」力を有する人材です。

そのためにも学部の学生8割を

在学中に海外へ派遣する計画です。

具体的には次の4つの取組みを行います。

1 域学共創学習プログラム

入学から卒業までの留学教育プログラムからなり、世界とつながるアクティビティ・ラーニング・プログラムを用いています。どうかよろしくお願い申しあげます。

グローバル人材育成 推進事業について

推進事業について

山口県立大学国際化推進室長 シャルコフ・ロバート

教育と捉え、ポイントとして累積、留学選考や奨学金受給の際に考慮する仕組み。ポイントを150点以上獲得すれば、インター・ローカル人材と認定されます。

4 十ヶ国語能力

異文化コミュニケーション能力を育てる取組みです。高い言語能力（TOEIC700点以上など）育成に加え、学生ごとにマイ言語履修プランを設計させ、入学前後の言語学習履歴データベースを構築していく、語学力管理システムの立ち上げ。

2 域学連携コンソーシアム

上記のプログラムを支援する組織。産業界、行政、海外学術交流協定校、地域団体のキーパーソンによる講義をはじめ、産学公のネットワークからの学びをとおして学生が海外とつながるスキルを駆使することが可能になります。また、留学経験を活かし、就職先を獲得していく場ともなります。さらに、地域課題を解決する知的拠点となり、人が暮らしやすい豊かな地域文化を構築する役割を果たしていきます。

※インターはインターナショナル、ローカルは地域



「海外スタディツアーア」出発式

3 IPDポイント制度

国際交流経験などを留学に向けたキャリアにつながる専門

「ともに生きることと、考えること

—チエルノブイリと福島—

講師 写真家 大石 芳野

平成二十四年十一月三十日(金)
桜園会館において開催された公開講座要旨は以下のとおりである。



私たちの国は原爆を経験している。そして昨年、福島で東日本大震災による原子力発電所の事故を経験した。原子力発電所による事故としては、アメリカのスリーマイル島、ウクライナのチエルノブイリの事故も挙げられる。このことは、原子力の平和利用と戦争利用に関して、以前より、広島で写真を撮つており、被爆によって苦しみながら生活をしている人たちと関わってきた。皆、亡くなつていく人を見送りながら、次は自分の番かもしれない、不安の中で暮らしてきた。広島での取材活動を通して、「核兵器はいけないが、じやあ、チエルノブイリはどうなのかな」と感じ、黙つていられなくなつた。

実際にチエルノブイリへ行くと、原子力発電所から30キロ圏内の多くの家は、避難により主を失っていた。事故当時、原子力発電所で働いていた作業員に話を聞くと、ウォッカを飲んで放射能をからだから出そうとしたと話していた。ウォッカを飲むだけで大丈夫なのかと聞くと、「だって、見えないもんね。」と話した。

(平成24年大学院健康福祉学
修了竹永記)

ガンの治療をする子、入退院を繰り返す子等、今でも困っている人がたくさんいた。

東日本大震災後、福島を訪れた。道路もひび割れたままの状態であり、住民は避難しだれもない状態であった。

農民も、畑はあるが、草を刈つても、耕しても、種を蒔いてもいけない状態。酪農家も、搾乳を行なながら、乳を畑に捨てる生活を続けていた。昔から暮らしてきた場を放射能によつて奪われただけではなく、生活そのものが奪われてしまつた。その中で、仕事を再開に希望を持つ酪農家等、少しづつ生活を取り戻す試みを行つてている。

放射能は、見えない存在である。事故が起きると、この見えない敵に故郷を支配され、戻ることが出来なくなつてしまう。写真家として四十五年経つ。写真を通して、関わってきた人の怒り、苦悩、そして次代への眼差しを伝えていきたい。

創立75周年記念誌の発刊準備について

山口県立大学事務局長 小田由紀雄

来年の話をすると鬼は笑うですが、三年先の話なら鬼はどうするのでしょうか？ 新年早々に少し先の話をいたしますが、本学は、2016年（平成28年）に創立75周年を迎えます。この節目の年に、先の50周年記念誌に次ぐ創立75周年記念誌を発刊すべく、現在、準備作業を進めています。

50周年記念誌を発刊したのは1991年（平成3年）。その後の20余年は、20世紀から21世紀へとミレニアムが変わる、まさに激動の時代。本学でも、男女共学化とそれに伴う山口女子大学から山口県立大学への名称変更と看護学部の設置（平成8年）、大学院の設置（平成11年）、独立行政法人化と博士後期課程の設置（平成18年）、国際化学部・生活科学部・看護学部の改組（平成19年）等々、大きな変化がありました。

この間の出来事を文章と写真で記録として残し、本学の未来に繋げていくことは、今を生きる私達の重要な役割。そういう思いで準備を進めているところですが、記念誌の制作に当たつては、資料収集から原稿作成まで、桜園会会員の皆様のご協力なくしては叶いません。資料、写真、思い出の品。何かございましたら、下記までご一報いなければ幸せます。また、寄稿をお願いすることもあるかと思いますが、その際にはよろしくお願いいたします。

鬼に笑われないような記念誌を創るべく、お力添えをよろしくお願ひいたします。

（連絡先）

〒753-8502 山口市桜島3-2-1

山口県立大学 経営企画部企画グループ
桜園会事務局（☎083-9257485）

（水曜日・金曜日の10時～17時）

人	事	異	動
■退職			
永本 隆	社会福祉学部准教授		
合屋さゆり	社会福祉学部助手		
林 隆	看護栄養学部教授		
木戸久美子	看護栄養学部准教授		
草間かおる	看護栄養学部助教		
堀川 美和	看護栄養学部助手		
藤野加奈子	看護栄養学部助教		
三上 奈々	看護栄養学部助手		
吉岡 一志	教育研究推進室助教		
家入 裕子	看護研修センター主任教員		
■新任			
倉田 研治	国際文化学部講師		
宮崎まさ江	社会福祉学部准教授		
家入 裕子	看護栄養学部講師		
白石 佳子	看護栄養学部講師		
吉兼伸子	看護栄養学部講師		
田中 和子	看護栄養学部助教		
澄川 朋子	看護栄養学部助手		
吉岡 一志	共通教育機構助教		
阿部 千代	看護栄養学部特任教員		
■事務局職員転出			
木村 泰則	教育課程		
津田 泰宏	新産業振興課		
■事務局職員転入（・法人採用）			
渡邊 隆之	経営企画部長		
・佐伯 朋子	生活支援グループ主任		

平成24年度
桜圃会総会開催



「い」とのお言葉がありました。桜圃会と大学は車の両輪であることを、改めて実感する場となりました。

講演は、国際文化学部文化創造学科准教授齊藤理先生による「大学生と観光まちづくり」と題し、ご自身のドイツでの体験や学生たちとの地域活動についてお話し頂きました。山口が抱える高齢化や中山間地域などの問題も、視点を変えることでデメリットをメリットと捉え「創造的に縮小する」という考え方を示唆して頂きました。文化の継承をしていく際に、「ぜひ桜圃会との連携を」との提案も頂きました。

司会の宮村ヤス代さん（昭和61年国文卒）の開会の辞に統いて、福田会長より「昨年は節目ニユータナカにおいて、一一八名の出席を得て開催されました。

第六十八回桜圃会総会が平成二十四年五月二十日（日）ホテルニュータナカにおいて、一一八名の出席を得て開催されました。

会食時のレクリエーションは、山口県立大学吹奏楽団BLAZEによる演奏でした。

懐かしの童謡や美空ひばりメドレーなど幅広い楽曲が美しい演奏で流れ、アンコール曲の山口県立大学学生歌では緒方先生（昭和28年国文卒）や学内理事などが前へ出て合唱し、それぞれの学生時代に想いを馳せました。講師の斎藤先生が講演の初めに話された、「ほっこり」する大学を表現したあたたかい一時になりました。（平成14年環境デザイン卒 小橋記）

附 属 地 士 文 學 資料センターからの お 願 い

当センターは、山口県にゆかりのある文学関係資料の収集・保存・公開を目的として設立されています。当センターでは、会員の皆様が執筆された「文学に関する著作」を収集しております。ご著書をご寄贈いただける方は、桜圃会事務局までご送付ください。

平成25年度 桜圃会総会のこ案内	
■ 日 時	平成25年5月19日(日) 午前10時～午後2時
■ 場 所	ホテルニュータナカ 山口市湯田温泉2-6-24 TEL 083(925)1313
■ 講 演	(演題) 「(20)五年 超高齢化社会を考える」 (講師) 山口県立大学学長 江里 健輔 先生
■ 会 費	5,000円 当番幹事はS 42.47. H 4.9.14.24.57.62. 卒業のクラス幹事さんです *出席希望の方は、5月8日(水)までに同窓会事務局までお知らせください。

平成23年度桜圃会会計収支決算書 H24.4.20(単位:円)	
科 目	23年度決算額
收 入	
繰 越 金	2,148,850
經 常 会 費	2,359,000
本 部 入 会 金	5,575,438
事 業 負 担 金	985,000
雜 収 入	618,329
特 別 会 計 より 繰 入	1,000,000
合 計	12,686,617

支 出	出
總 会 費	1,105,494
会 議 費	357,890
支 部 援 助 費	1,017,800
会 報 作 成 費	1,288,157
公 開 講 座 費	61,742
桜 圃 会 賞 費	249,600
桜 の 森 育 成 事 業 費	60,423
入 会 記 念 品 費	340,370
旅 費	1,676,230
通 信 費	101,988
印 刷 費	0
事 務 局 運 営 費	2,505,623
退 職 給 与 引 当 金	150,000
情 報 管 理 費	172,880
備 品 費	0
消 耗 品 費	186,823
雜 費	75,300
予 備 費	0
合 計	9,350,320
次 年 度 繰 越 金	3,336,297

事務局からのお願い

同窓会の運営は皆さんの会費で成り立っています。
会費の納入にご協力下さい。

◆桜圃会本部経常会費納入(年間千円)をお願いいたします。
*65歳以上の会員で希望される方は終身会員になります。
終身会費は一括払い1万5千円です。(H23.5.23改定)

◆振込用紙に郵便番号、住所(番地、建物名、部屋番号)、氏名(ふりがな)、電話番号を正確にご記入下さい。
通信欄には会員番号(封筒の宛名シール右下)、卒業年・科・勤務先、送金明細をお書き下さい。
*住所・勤務先の変更、改姓も必ずお知らせ下さい。

◆ご連絡・ご質問の窓口
山口県立大学同窓会桜圃会事務局

住 所 〒753-8502 山口市桜島3-2-1
TEL&FAX 083(925)7485(職員在室日は水・金曜日 10時～17時)
E-mail ouhokai@yamaguchi-pu.ac.jp
山口県立大学のホームページからもアクセスできます。
(http://www.yamaguchi-pu.ac.jp)

*桜圃会では、個人情報保護法を遵守し、取り扱いについては慎重に対応してまいります。

桜園会賞応募要綱

功労賞は、

卒業後の会員の活動をたたえ

① 地域社会の文化の振興

② 生活文化の創造や普及

③ 文化的環境づくり

④ 地域社会や文化を担う人材育成

に寄与する活動をしている会員若しくは会員が主催するグループや団体に授与されます。

桜園会本部あるいは支部の推薦、または他の会員の推薦を受けて応募して下さい。

奨励賞は、

準会員(在学生)の活動を支え、

上記①~④の活動が期待される準会員若しくは準会員が主催するグループや団体に授与されます。

大学教員の推薦を受けて応募して下さい。

なお、受賞者は選考委員会の審査を経て、桜園会理事会で決定されます。

応募手続き・問い合わせ先

所定の様式に必要事項を記入のうえ、山口県立大学同窓会桜園会事務局に提出してください。

応募日程

(1) 応募期間: 平成25年6月1日から8月31日まで(当日消印有効)

(2) 結果発表: 平成25年10月(予定)

第十一回桜園会賞 受賞報告

第12回
桜園会賞

功労賞を受賞して

古川 綾子



留学生をはじめ他国の人々との交流は、平和をめざす多文化共生への道を開きつあるのではないでしょうか。

かつて私は、県広報として各分野で活躍の女性、四百余名様をラジオ取材させて頂き、与謝野晶子の「山の動く日」の節、「すべて眠りし女今ぞ目覚めて動くなる」を実感。あふれるパワーに元気を頂いたものです。

地域活動は、多くの人々や、多様な文化にふれる機会を与えてくれます。そのことが、自分を育てる「心の糧」になるのではと思うのです。

終わりに、山口県立大学と桜園会のご発展を祈念しつゝお詫びの言葉といたします。

(昭和25年生活科卒)

地域活動の中、学習会で学んだアジアの子供達が、東日本大震災の教育復興に、メッセージや寄付金を届けてくれています。

施設で披露するなど幅広く活動しています。一見難しそうに見える踊りですが、アレンジを加えれば誰でも気軽に触れることができる踊りとなっています。今年度は、普段よさこいに触れる機会が少ないと思われる障

第12回
桜園会賞

奨励賞を受賞して
山口県立大学よさこいサークル審議会委員会
加賀みづき



この度、桜園会奨励賞をいたしました、よさこいサークル奄美連合秋組です。このような賞をいただくことができ、誠に嬉しく思います。

私はこの「よさこい」という踊りで笑顔を届けるために、県内外のお祭りに参加したり、施設で披露するなど幅広く活動しています。一見難しそうに見える踊りですが、アレンジを加えれば誰でも気軽に触れることができる踊りとなっています。今年度は、普段よさこいに触れる機会が少ないと思われる障



第12回
桜園会賞
奨励賞を受賞して
災害ボランティア実行委員会ふちボラY
遠藤 嵩大

この度、桜園会奨励賞を頂きました。(社会福祉3年)

私はこれまで、2011年3月11日に発生した「東北大震災」によって甚大な被害を受けた東北地方に向けて「山口から少しでも力になりたい」という学生一人ひとりの想いから、現地の二

害児によさこい踊りを体験してもらう企画を実施しました。よさこいを通じて交流を楽しむことで、精神の安定や不眠改善につなげることもできました。今後は、幅広く高齢者、地域の方々にもよさこいを知ってもらい、地域の活性化につながるよう積極的に活動していくたいと思います。

今後とも温かく見守っていただけ幸いです。ありがとうございます。

今後も、地域の防災意識向上を目指すとともに活動を通して生まれた全国の人々との絆を大切にして活動に取り組んでいきたいと考えています。

これからも温かく見守って頂ければ幸いです。ありがとうございます。

(社会福祉4年)

や宮城県・岩手県での現地支援活動などに取り組んできました。そして昨年度は、これまでの活動から学んだ「日頃の防災」の重要性を伝えることを目的とした地域住民の方々、中国地方の各県立大学、岩手県立大学生を招待したフォーラムを開催し、地域の防災意識向上を目指しました。この他にも地域イベントに積極的に参加し、災害への意識風化防止の活動に取り組んでいます。

会員近況報告

地球歩く

田中美美子



私はこの夏、今までの人生の中で
もとも貴重な体験をした。

それは、アメリカに住む娘の所へ
一人で行ったことだ。娘は八年前留
学し、昨年オーストリア人と結婚、
夏には出産を控えていた。ここは
母親の出る幕と意を決したものの、
娘は常々私ることを「箱入り母さ
ん」と呼んでいたように、海外はお
ろか日本国内でさえ「人旅をした
ことがある同級生が「大丈夫よ。
英語は世界共通だから。」と涼し
い顔をして後押ししてくれた。だ
が、肝心の英語ができない。ともか
くもダイヤモンド社の「地球の歩
き方」と電子辞書を持って成田か
らの直行便でボストンへ飛んだ。

アメリカはまさに移民の国だ。
娘が用意してくれたゲストハウ
スの管理人は中国人、清掃に来る
人は黒人や東南アジア人、住人に
はイタリア人がいた。地下鉄やタク
シーの運転手は黒人だった。公
園で本を読んでいると、サリーを
着たインド人が近づいて来た。ス
パーに買い物に行く道すがら多
様な人達とすれ違う。そんな時、
ああ、地球を歩いているのだとい
う感覚が湧いて來た。

そんな折、父親の血を濃く受
け継いだ孫が生まれた。娘家族
は田舎暮らしの私にグローバルな
ものに目をむけさせせる窓となつた。
いつか孫と再会した時、コミュニ
ニケーションがとれるのか少し心
配だが、ただ健やかに育つてく
れることを祈るのみである。

小鳥来るモザイク壁の

夢に向かつて

荒川 結奈



会員近況報告
(昭和42年国文卒)
セミナリヨ

私は現在、東京で女優・モデル
として活動しています。きっかけ
は山口県立大学の学園祭で「アッ
ショントン」に出たことでした。
その後、縁あってジャパン・ファッ
シオニアードで「アッシュトントン」
のど自慢 チャンピオン大会を
きつかけに 齊藤 輝

在学生紹介



齊藤 輝

「歌う」行為に責任を感じ始め
たころ、視点が変わった。
昨年の2月、NHKのど自慢に
出場させていただく機会があつた。
人前で歌うことには慣れていたが、
あまりの観客の数に眩暈がするよ
うな緊張を覚えた。これまで单なる

ショーン・デザイン・コンテストや山
口美少女図鑑などに出させてい
ただき、2010年ミス日本コン
テストにも中国・四国地区代表
として出場することが出来ま
した。そしてミスコンテストで東
京の事務所に所属する話をいた
だき、在学中でしたが山口と東
京を行き来しながらの芸能活
動を始めました。

りたいと思うようになりました。
在学中にも関わらず、東京で活
動することを許してくれた家
族や大学の先生方、そして応援
してくれた友人たちには大変
感謝しています。

現在はファッショニヨー・雑
誌、ウェブカタログなどで主にモ
デルとして活動しながら、様々
なオーディションを受ける毎日
です。将来的には女優として活
躍したいと思っており、2012
年9月に念願かなつて映画「鍵
泥棒のメソッド」で映画出演を
果たすことが出来ました。これ
からも女優として活躍するとい

シーや運転手は黒人だった。公
園で本を読んでいると、サリーを
着たインド人が近づいて来た。ス
パーに買い物に行く道すがら多
様な人達とすれ違う。そんな時、
ああ、地球を歩いているのだとい
う感覚が湧いて來た。

語学習得に力を入れ始めたきっ
かけは、留学生との交流だった。高
校で英語の授業が好きだったため、
すぐ話せるだろうという気持ちが
あった。しかし、口からついて出て
くる言葉は自分で理解不能な
もので、相手の言っていることも全
く分からぬ。言語の壁は、私を日々
悩ませていった。留学生は私の言う
ことを懸命に理解してくれようと
したし、彼らもまた日本語を学ぼ
うとしていた。それ以来、自分の思
いをありのままに表現したい、その

音楽、言葉を通じて伝えられる
ことを日々の生活の中で、この山口
という地で、探し続けていく。
(文化創造2年)

る趣味であった音楽は、その日から、
自分をアピールしていく「手段」に
変わつていた。

入学以降、音楽、言語、美術、様々
なことに興味を持ち、自ら学んで
いった。音楽・言語と共にすること
がある。それは、「伝える」こと。私
は宮野という地に生まれ、19年間
を過ごしてきました。この大学に入る
まで、私にとつて音楽・言語はただ
これといった意味もなく学ぶもの
だった。しかし今、私の目の前には
伝えるべき「相手」がいる。応援し
てくれる仲間がいる。

音楽、言葉を通じて伝えられる
ことを日々の生活の中で、この山口
という地で、探し続けていく。
(文化創造2年)

（平成24年国際文化卒）

う夢に向かつて頑張つていき、そし
ていつか、夢を見つけることのでき
た山口県立大学に貢献すること
ができればと思っております。ぜひ
ひ応援をよろしくお願ひいたします。

（平成24年国際文化卒）

「わが師わが友わが半生(後)」
「わが師わが友わが半生(続篇)」
(元山口女子大学学長・名誉教授)
中山 清次著
(獨協大・マジマ印刷(非売品))

新刊紹介



平成24年度大学との 情報交換会

本年度の情報交換会は、2回開催された。1回目は5月19日（支部長・理事出席）、2回目は11月2日（理事出席）。

5月の会では、江里学長から4

月より第2期中期計画（6年間）がスタート。教職員も新しい気持ちで頑張っている。学内の会員が連携を強めて大学を盛り上げてほしいとのお話が。第2期中期計画の概要は、地域マインド豊かな人材の育成・地域活性化への挑戦（頼りにされる大学）・山口県が抱える課題に対応する取り組みなどが示された。キャンパス移転については、今年度予算が付き、設計の準備、手続きに。キャンパス移転は100億円超の金額になると思われる。大学の姿勢が問われる時期なので、桜圃会の口こみのサポートを期待したいとのこと。また、「さくらの森夢基金」の設立と寄附のお願いがあった。

11月の会では、大学の近況報告で、「さくらの森夢基金」には、総会や支部会でのご厚志で着実に寄付が寄せられており、謝辞があつた。文部科学省「グローバル人材育成推進事業」のBタイプに公募し、採択された。平成29年度までの5年間、国際文化学部の教育費として、総額350百万円の財政支援を受けることになつた。今年度は、システム作りに取り組むことに。

キャンパス移転については、業者と委託契約を交わし、基本設計に着手。桜圃会関係の施設は、気楽に行き来出来る場所を希望しました。ホームページも新しくなりブログも始まつた。ホームページやブログを開いて、大学の日々の動きにも関心を寄せてほしいとのこと。

（昭和49年
保育卒
石崎記）



平成二十四年五月十九日（土）に於いて、第十七回桜圃会支部長・理事合同会議が行われました。（県外から八支部、県内から十二支部、理事出席）

福田会長から、毎年この会で、同窓生全体の一体感が生まれるので和やかに進めていきました。というあいさつがあり、相本副会長の司会のもとに会が進行しました。



支部長・理事 合同会議報告

支部総会への参加者が少なくメンバーも固定化し、次期役員への引き継ぎも難しく会員の高齢化で運営も大変な支部もあります。

近隣の支部同士での合同支部総会をもつたり、魅力的な研修講座を工夫したりして一人でも多くの参加を呼びかけ成功している支部の方のお話もありました。

ご高齢の会員の中には、支部総会を心のよりどころにいらっしゃる方もあると聞くと、熱い思いを胸に、世代を超えて

より一層手をとりあつて進める

（平成3年食栄卒 熊野記）

どの支部も、総会の持ち方や研修会の内容など、工夫をしながら熱心に取り組んでおられる様子がとてもよく伝わってきました。

この会が、今後の支部活動や桜圃会の発展につながっていくことを願います。

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

◆教職員
旧教 河地 正雄 H23.6.23
旧職 口羽 常盤 H24.1.8
旧教 輪部 文江 H24.7
旧教 石澤 昭雄 H24.10
旧教 河済 敏子 H24.12.4
旧教 内海 和雄

◆会員
S26養護教員養成所 松永 節子 H10.2.14
S27児童 吉松 弘子 H22.3.23
S36国文 大屋 悅子 H22.4.10
S31被服 村本ヤスエ H22.12.13
S34国文 大川 君恵 H22.12.24
S37被服 高木百合子 H22.12
S40保育 伊藤 啓子 H23.3
S18家事 飯田 弥生 H23.6.9
S61食管 日比 愛子 H23.6.25
S56国文 徳田 三恵 H23.6
S41保育 浅原富美代 H23.8
S29国文 渡辺 久代 H23.11.5
S23被服 大藤 和 H24.1.1
S22国文 徳永喜代子 H24.1.25
S27国文 藤井 貞子 H24.2.5
S63食管 中尾 及子 H24.2.19
S34食物 伊藤 強子 H24.3.6
S29児童 角田 倭子 H24.4.14
S47食物 小林恵美子 H24.5.4
S29被服 竹田 妙子 H24.6.1
S22育児 三好恵美子 H24.6.10
S40国文 菊地 静枝 H24.7.13
S43国文 小宮 蓮子 H24.7
S20家事 御手洗芳子 H24.8.1
S33国文 河野しひのぶ H24.9.26
S24生活 新山 純子 H24.11.7
S23生活 布浦 文江 H24.12.17
S25生活 松西 妙子 H24.12.17
S25育児 古賀 秀子



世代をこえた絆

近畿支部 赤木 絹子

六月三日(日)、ホテルグランヴィア大阪にて、第四十五回近畿支部総会を開催致しました。会長の福田百合子先生と理事の土田敏子様をお迎えし、そしてまた大学から副理事長の小田様もかけつけて下さいまして近年にない盛大な会となりました。

総会後の懇親会では、福田先生が故河地先生との若かりし頃のエピソードや俳句をご披露され、また現在シャンソンに打ち込んでいらっしゃるとの事。若々しく前向きなお姿に全員拍手喝采の思いでした。

小田副理事長からは「キャンパス移転」や「さくらの森夢基金」のお



話しがあり、大学の現況を直接聞く事ができ、母校の将来に夢がふくらむ想いでした。

恒例の自己紹介を兼ねた近

況報告では、大先輩達の年輪を重ねた巧みなお話しぶりに笑い

の渦が起り、また現役世代の

パワフルな職場での体験談にエネルギーを頂きました。現在教職

に就いていらっしゃる方々も数名出席され、また雑誌のライターとして活躍中の平成卒の方など

近畿支部会員の活躍を改めて知り得る機会となりました。

輝く笑顔、たくましさ。世代をこえた絆をこれからも大事にしたいと強く思いました。

(昭和45年食物卒)

懐かしい歌声とともに

宇部支部 白木紀美子

桜園会の皆様にはご健勝のこととお慶び申し上げます。

2012年7月8日(日)国際

ホテル宇部にて第49回宇部支部総会を開催致しました。大学本部から江里学長、相本艶子副会長をお迎えし、50数名の出席で総会が始まりました。定例総会の後は江里学長のご講演、演題

「元気で百寿になりたいならば」。総会案内で連絡しておりますので、関心の高い演題に惹かれ



て出席を決めた会員もおられたそうです。お話を日常に関するもので大変解りやすく引き込まれていき、うなずいたり笑つたりであつという間の一時間でした。

午後は会場を移動しての懇親会で、食事のあとゲームをしたり、周りのテーブルを訪ねて

幹事による急遽結成の合唱団の歌を披露して、そのまま懐しい

歌声喫茶を再現したような出

席者全員の歌声で会場が盛り

上がりました。当番年のこの一

年間、同窓生と楽しく旧交を温めることができました。この想

いを次世代の桜園会に引き継ぎ、

今後共、新卒業生まで幅広い年

代の方々の支部総会へのご参加をお待ちしております。

(昭和46年被服卒)

〈平成24年度支部会開催報告〉

開催日	支部名	本部から出席
24年 4月15日	山口支部	江里健輔学長／田村 洋先生 福田百合子会長
24年 6月 3日	近畿支部	小田由紀雄副理事長／福田百合子会長 土田敏子理事
24年 6月 3日	福岡支部	江里健輔学長／宗内惠美子理事
24年 6月 3日	下関支部	
24年 6月 9日	関東支部	長坂祐二副学長／福田百合子会長 安光裕子理事
24年 6月17日	長門支部 萩支部	江里健輔学長 国広勝代理事
24年 6月17日	小野田支部	小田由紀雄副理事長／三谷明美先生 小橋圭介理事
24年 7月 8日	宇部支部	江里健輔学長／相本艶子副会長
24年 9月30日	東海支部	江里健輔学長／乃木章子理事
24年10月20日	岩国支部	長坂祐二副学長／土田敏子理事
24年10月28日	広島支部	江里健輔学長／相本艶子副会長
24年10月28日	防府支部	小田由紀雄副理事長／安光裕子先生
25年 2月17日	柳井支部	江里健輔学長／福田百合子先生 安光裕子理事

桜園会支部リスト (平成24年12月現在)

支部名	支 部 長 名	支部数(名)
関 東	塚本 好恵 (国文51)	845
東 海	藏重 文子 (国文38)	146
近 畿	赤木 絹子 (食物45)	681
広 島	松原 正美 (国文33)	625
四 国	村松 幸子 (食物35)	304
北 九 州	池上 富子 (食物44)	469
福 岡	宗野 淑 (被服39)	443
佐 賀	久保由美子 (食物49)	144
大 分	栗屋 文世 (国文44)	280
岩 国	若林 光江 (国文42)	237
柳 井	西村 敦子 (保育38)	228
下 松	小田 玲子 (児文56)	345
徳 山	藤井由美子 (国文45)	392
防 府	神山 直子 (国文57)	473
山 口	白金 直枝 (保育42)	1,475
萩	藤井 郁子 (国文47)	167
長 門	中澤 允子 (被服36)	135
宇 部	白木紀美子 (被服46)	821
小野田	伊藤 礼子 (食管57)	187
下 関	入江 裕美 (保育47)	504

編集後記

この度、國らずも伝統ある桜園会報発行に係わらせて頂くことになりました。会報は母校の変遷とともに歩みを重ねて61号。改めてその重みを感じます。大学は目下、第2期中期計画の「地域貢献の推進」「教育研究の質の向上」等に力強く取り組まれています。私たち同窓生も大学の発展を見守り心を寄せて、すばらしく「桜の園」の一日も早い実現を願いたいと思います。

(矢儀記)